

H28年次 農村環境分野 選択科目Ⅱ-2-1 農村地域において、地域で発生する家畜糞尿や汚泥など含水比が比較的高いバイオマスの利用を推進することとなった。あなたが本バイオマス乗りように向けた計画策定の責任者として業務を進めるに当たり、下記の内容について記述せよ。(1)計画策定に当たり調査・検討すべき事項 (2)業務を進める手順 (3)業務を進めるに当たって留意すべき事項 (2枚以内 横24×25 600\*2 1,200字以内)

(1) 計画策定に当たり調査・検討すべき事項

1) 基本計画

(1) - 1 マテリアルサイド

フィージビリティスタディによる、対象となる事業

ア) 家畜糞尿や汚泥の年間発生量把握

が計画通りに実行できそうか否かを検証し、計画実施

家畜糞尿や下水道汚泥の年間発生量を調査し、バイ

の可否を判断する。その際は、複数の計画案による検

5 オマスマテリアルとして利用可能か検討する。

30 討や、資金の出し手が資金を拠出するか否かも検討す

イ) 家畜糞尿や汚泥のマテリアル利用可能分析

る。

家畜糞尿や下水道汚泥の成分を分析調査し、ガス化

2) 住民参加への取組

や堆肥化などバイオマスとして何に利用するのか検討

事業実施にあたっては、住民の意見を広く募り、住

する。

民の合意形成を図る必要がある。なお、参加形式につ

10 ウ) 家畜糞尿や汚泥の発生量のバラツキ調査

35 いてはワークショップ、意見交換会、アンケートなど

家畜糞尿や下水道汚泥をバイオマスとして利用する

がある。

ため、月・日発生量を把握し、バラツキがある場合は、

3) 実施計画

平準化出来るのか検討する。

実施計画策定に於いては、イニシャルコスト、ラン

エ) 家畜糞尿や汚泥の集荷対策

ニングコスト、ライフサイクルコストを勘案しながら、

15 経営体との家畜糞尿や下水道汚泥の集積・回収、

40 費用対効果算定し、最終的な実施計画とする。

施設までの輸送法やストック場所を調査し、集・出荷方

(3) 業務を進めるに当たって留意すべき事項

法等を検討する。検討の中で、集荷を外部に委託する

業務を進めるに当たって留意すべき事項として、施

コントラクター方式などの検討を行う。

設稼働にあたり、周辺環境への影響に留意するととも

(1) - 2 施設整備サイド

に、マテリアル利用後の副産物の処理にも留意した計

20 施設整備サイドの調査・検討事項として、「集・出荷条

45 画とする。

件」と「立地適正」がある。集・出荷条件では、マテリ

また、施設の将来的な維持・更新計画を策定すべき

アルが効率的に集・出荷できる最適場所の調査検討す

である。その際は、予防保全の観点からの維持・更新

る。立地適正では、環境面、景観面で地域住民の合意

計画が望ましい。

の得られる場所を調査、検討する。

ー以上ー

25 (2) 業務を進める手順